市議会あんな話・こんな話 ～第13話～

「市立病院の変遷 前編 ～加治屋町へ移転～」

かつて、南林寺町にあった市立病院は、昭和20年6月17日の大空襲で焼失。戦後は、医師5人、看護婦9人の体制のもと、民間の病院と市庁舎の一階で診療を始めました。

その後、「早く立派な市立病院を」との市民の要望が強く、現在地（加治屋町）への病院移転計画が明らかになったのは、22年2月の市会でした。当時の勝目市長は、「新都市計画の中心地である新屋敷大広場の一角に市立病院の新設を計画している」と説明し、建設費は起債によるほか、病院収入を充てるとの方針でした。

郡元の占領軍の管理下にある旧海軍航空隊の兵舎を新屋敷の広場に移して建設する計画でしたが、建設資材調達の見通しが立たないなど、建築認可に手間取り、「いつになったら建設が始まるのか」と、市会もいら立ちを深めました。

市が譲渡を希望した郡元の兵舎は、各方面からも払い下げを望む声がありましたが、「何よりも病院優先」とする占領軍の医療に対する積極的な姿勢が幸いし、市立病院への譲渡が実現しました。その後、23年5月に移転建設に着手し、同年9月に完工、10月11日から診療を開始しました。

昭和37年ごろの市立病院